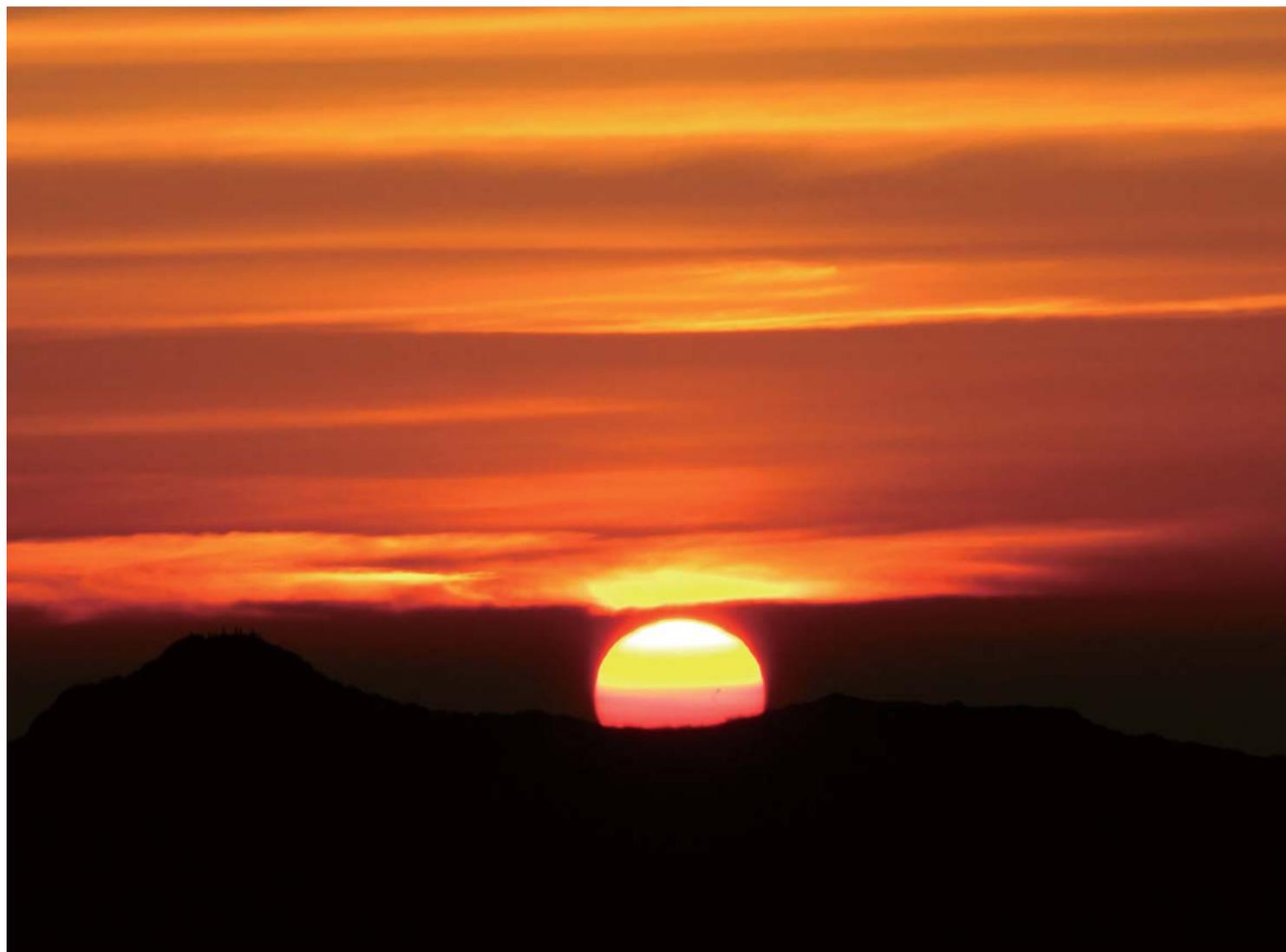




宇宙

Vol.63

●題字は深町正喜氏



「久住山頂からの日の出」 小南達矢氏撮影

■介護老人保健施設とは …………… 2	■新人紹介 …………… 6
■エピペンについて …………… 2	■職員旅行 …………… 6
■ごみゼロおおいた作戦功労者表彰 … 3	■日田漫歩 ④9 …………… 8
■全体研修 …………… 3	「香魚」復活に拍手！
■第16回九州ブロック 介護老人保健施設大会 in 大分 …… 4	■ダイケア …………… 8
■聖陵トピックス …………… 5	■編集後記 …………… 8

介護老人保健施設とは

聖陵ストリームは介護老人保健施設（以下老健）という施設です。食事や排せつの介助などの介護サービスは提供されます。しかし老健でのサービスはあくまでも在宅復帰を目的としたもので、提供されるのは自宅などに戻る為のケアです。その為、特別養護老人ホーム（以下特養）のように「終（つい）の棲家（すみか）」ではないため、入所して3か月期間ごとに退所あるいは入所継続の判定が行われます。まさに老健は自宅に帰ることを目的とした施設です。

「ここがいいからずっと入所させてほしい」という方も多くいらっしゃいますが、ずっと入所することができるのは特養です。老健は専門のリハビリ訓練士がおり、在宅生活のための専用の訓練を行って御家族が不安に感じている食事面や介護についてもアドバイスさせて頂き、自宅で生活を送ってもらえることを目指しています。

病院に入院されて病状が回復し治療が終われば退院しなければなりません。そのまま自宅へ帰ることに不安な方もいらっしゃると思います。そこで、病院からそのまま老健に入所しリハビリ士による訓練を受ければ、自宅での生活が不安なく送れるはずですよ。そのようなサービスが受けられるのが老健です。また、自宅に帰るにあたって不安な点もあるでしょう。家の段差の改修や介護ベッド等が必要になった時は、施設の相談員はこうしたらいいですよというアドバイスをしてくれます。また通所リハビリや訪問介護など介護サービスの利用についてもケアマネージャーさんと話をして適切なサービスができるよう協力をします。聖陵会では病院や施設だけでなく、自宅で受けられる訪問看護や訪問リハビリと様々なサービスが利用できます。

老健は一度きりの利用ということではなく、施設に入ったり、自宅に帰ったりと何度も利用できることです。本人さんの状態や、御家族の状況で利用していただいて構いません。一時的に使い、誰でも利用できる施設だと思っていただきたいと思います。



エピペンについて

聖陵岩里病院・聖陵花月クリニックでは、アナフィラキシー症状を緩和するための自己注射器「エピペン」が処方できます（保険診療対象）。

アナフィラキシーとは、アレルギーの原因となる食べものを食べたり、ハチなどに刺されたりしたときに起こる「免疫」の過剰反応で、数分～数十分以内の短い時間に全身にあらわれる激しい急性のアレルギー反応のことをいいます。アナフィラキシーは、血圧低下、呼吸困難、意識障害などのアナフィラキシー・ショックに至り、生命を脅かす危険な状態になることがあります。

「エピペン」は、アナフィラキシーがあらわれたときに使用し、医療機関で治療を受けるまでの補助薬剤です。

アナフィラキシーを根本的に治療するものではなく、「エピペン」注射後は、直ちに医師による診察を受ける必要がありますが、病院に行くまでの症状悪化の防止に役立ちます。

詳しくは、聖陵岩里病院・聖陵花月クリニックまでお問合せ下さい。



ごみゼロおおいた作戦功労者表彰

6月8日「ごみゼロおおいた作戦功労者表彰」が大分県庁で行われました。

聖陵会水環境委員会が表彰されました。

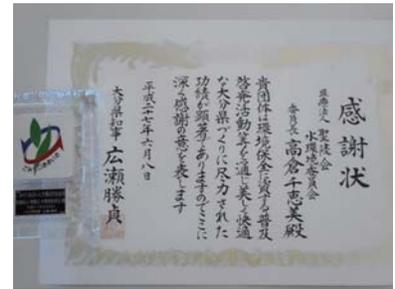
環境美化活動や技術開発、環境保全と様々な部門があり、毎年多くの団体や個人の方が表彰されています。今年も、11団体・個人でした。聖陵会は、長年にわたり、環境保全に尽くしたとして



表彰の様子



表彰されました。今回の表彰を受け大変うれしく思います。理事長をはじめ委員会発足当時のメンバー、現在のメンバー、また活動するに当たり、お世話になっている方々皆様のお陰だと思っております。私たちに出来ることはわずかですが、このような場所をお借りして配信していくことで、より多くの人たちに環境について感心を待っていただければよいと思います。



全体研修 ～メンタルヘルス・リスクマネジメント・認知症・虐待・感染について～

6月20日、パトリアにて聖陵会全体研修会が行われました。

内容は、「メンタルヘルス・リスクマネジメント・認知症・虐待・感染について」です。

認知症・虐待については、『ある高齢者の詩』を朗読し、「認知症の方にとって大切なことは、病気を見るのではなくその人個人を見るのが大切。」という話がありました。

個人の背景を探ることで個別対応がスムーズに進み、BPSD（行動・心理症状）が落ち着き、虐待防止にもつながるのではないかと感じる話でした。

感染については、『院内感染対策』としてインフルエンザ流行期における病棟での対策などの報告がありました。

岩里病院は外来と一部病室が2階にあるため、外来患者からの感染の可能性もあるということで、いかに院内感染を拡大させないかが大切だということがわかりました。



全体研修会の様子



特別講師：鎌田敏先生

板屋副院長による『**デマンドコントロールの検証**』についての話では、「たった30分のオーバーがその先1年間影響してくる。」「大切なのは使う電力を減らすということではなく、職員全体が参加して行うという意識を持つことが何より大切。」ということを知り、デマンドの大切さを再確認できました。

特別講演は、こころ元気研究所の鎌田敏先生にお越しいただき、『安全は、「こころ元気」から！』と題して、リスクマネジメントについての講演をしていただきました。

笑いを交えた参加型の講演で、「職場の空気はみんなで創るもの」「コミュニケーションはキャッチボール」など意思疎通を図ることがリスクを減らしていくことなのだと感じました。研修が終わる頃には演題通り「こころ元気」になれました。

今回の研修で学んだことや改めて実感したことなどを今後の業務に生かしていきたいと思えます。

第16回九州ブロック介護老人保健施設大会in大分

今だから、今からも、老健施設～進化・深化・真価～

7月16、17日に第16回九州ブロック介護老人保健施設大会in大分が開催されました。テーマは「今だから、今からも、老健施設～進化・深化・真価～」。聖陵ストリームからは、以下の3題を通所リハ介護福祉士佐藤洋介さん、看護師佐藤由香さん、管理栄養士熊谷彩さんが演題発表しました。

人と人との関わりを深めて ～拒否のある利用者に向き合ってきたか～

脳出血後遺症により全失語と右片麻痺の症状がある60歳代の男性利用者さんは利用開始時から入浴や歯磨き、トイレ介助などに拒否が強くみられていました。障害を受容できていない点もありますが、馴染めない環境やコミュニケーションをうまくとれない状況で不安を抱いていたと思います。スタッフ個人毎と利用者さんとの個別の関わりをこまめにとることや無理強いをせずに褒めたり認めたりする対応を心掛け、髭剃りや足湯など一つずつ段階を重ねた結果、笑顔が増えて表情が豊かになり、入浴やトイレ介助への拒否がなくなりました。個人毎で利用者さんとコミュニケーションをしっかりと図り信頼関係を築くこと、充実した個別ケアを提供すること、利用者さんの心をくみ取ることの重要性を再確認できた機会となりました。

施設の限界 ～同法人病院と連携した 老健における褥瘡看護～

入所者さんがスキントラブル(痒み・擦過傷)から褥瘡(床ずれ)へと移行し、悪化する経過となり、同法人病院と連携しながら褥瘡治療・ケアに取り組みました。感染症状などがあり同法人病院へ外科的治療目的で入院する期間もありましたが、当施設では痒みへの対応(入浴回数を増やす、軍手を着用して頂く、排泄確認をこまめに行うなど)やベッド上・車椅子上での姿勢の確認と



講演の様子

こまめな修正、処置の徹底に努めた結果、長期化してしまった褥瘡の治療へと繋がりました。施設におい

て、褥瘡予防に努めること、褥瘡の早期発見と専門医と連携した治療方針に従うこと、スタッフ間での周知徹底した個別ケアをとること、創意工夫した対応をとることが必要不可欠であることを再認識し、今後も褥瘡ケアを追求していきたいと思います。



看護師 佐藤由香

自宅介護及び在宅復帰に対する医療法人聖陵会の 取り組み～自宅でも安心な食事を～

高齢化社会の現代で自宅介護をする方々が多い中、御家族が困っていることの一つに「食事」が挙げられています。通所リハビリ利用者さんの自宅での食事形態に疑問を抱いたことと、施設から自宅へ退所される方へ栄養指導を行う際に食事形態の説明を行う中で詳細を伝達できていないことに気づき、自宅で御家族を助けているヘルパーさんを対象に、簡単に作れるソフト食とゼリー食の調理実習を定期的に行いました。高齢者ソフト食は、①舌でつぶせる固さであること、②すでに食塊(一口の大きさなどの塊)となっているような形であること、③飲み込みやすく、すべりが良く移送しやすい(口の中に残りにくい)ものであることが定義です。ヘルパーさんからは「とろみ剤(食材を固める調整食品)の勉強になった。提供できる料理の幅が広がって、煮込み料理以外の利用者さんの好きな食事を作れるようになった。」、御家族からは「とても助かる」などの声が聞かれています。家庭でも簡単に作れて、できるだけ御家族と同じものを食べられる喜びを理解して頂き、ヘルパーさんを通してより多くの利用者さんが自宅で安心して過ごせるように、今後も取り組んでいきたいと思っています。



演題発表の様子

聖涼祭

お疲れ summer
届けたい
ひとりひとりの
感謝の気持ちを

8月1日(土)、今年もストリームの夏のイベント聖涼祭が開催されました。今年は「お疲れ summer 届けたい ひとりひとりの感謝の気持ちを」とテーマを掲げ、私たち職員一人一人が日頃の感謝を皆様にお届けできるようにと準備をすすめてきました。

祭りを盛り上げるために地域でご活躍の方々に御協力をお願いし、前津江浦和太鼓、三味線教室陸の会、昭和学園高校バトン部に登場していただきました。

迫力ある力強い太鼓の音、凜とした三味線の音色、元気ハツラツな高校生のダンス、聖陵会芸能隊のソーラン節、それぞれとても素晴らしくご来場のお客さまにも喜んでいただけたのではないかと思います。

また、屋台では日田中央ロータリークラブや中釣町青壮年会、聖陵会厨房からのたくさんの美味しそうなメニューが並び、多くの御家族が笑顔でお食事を楽しまれる姿を見ることができました。屋台の中には、デザートやかき氷、光るおもちゃがあり小さなお子さんの喜ぶ顔がみられました。



屋台での食事の様子



バザー風景

施設内では、三年前の九州北部豪雨をはじめ、聖陵会の各委員会の日頃の活動内容を写真を交えて展示したり、バザーを開いたりして多くの方に観覧と買物を楽しんでいただきました。

辺りが暗くなってからは、毎年盆踊りを盛り上げてくださる亀川町口説き保存会の方々に登場いただきました。迫力のある口説きの唄に合わせて地域の方々をはじめ職員も一緒になっての盆踊りは日本の夏を感じさせる有意義なひとときでした。

最後に恒例の抽選会が行われ、すべてのプログラムを無事に終えることができました。

尚、バザーの収益金は福島県相馬市への義援金、ボランティア委員会の募金はカンボジア・タイ・カメルーンに寄付させていただきます。

多くの方々の御参加・御協力のおかげで第18回聖涼祭が滞りなく開催できましたことに、職員一同心より感謝いたします。



盆踊りの様子



屋外ステージ

リバーフェスタ in みくま川

8月23日(日曜日)に第20回リバーフェスタ in みくま川が開催されました。

「水郷」日田のシンボルでもある三隈川が今日一日限定で自然の遊園地に。

今年も聖陵会から水環境委員会が中心となり参加させて頂きました。例年は亀山公園にブースを設けていましたが、今年はスタンプラリー等が開催される関係で救護班は亀山公園・水委員会が出す屋台は三隈川公園にと分かれてブースを設けました。今年もたくさんの子供たちが参加し、普段出来ない川すべりやターザンロープ等で思いっきり楽しんでいました。また、ボート大会では聖陵会から3チームが参加し、その中で聖陵会Bチームが見事3位に入賞と健闘しました。当日は天候にも恵まれとても暑くなりましたが、川の水はひんやりと心地よく、普段より自然を近くに感じる事ができた一日でした。

実行委員の方、並びに参加された各団体の方、大変お世話になりました。



聖陵会ボートチーム

新人紹介



須崎由紀

所属／岩里病院 看護部
職種／ナースエイド
生年月日／昭和46年5月23日
血液型／O型
趣味・特技／手芸、旅行
●患者さんの安全を第一に笑顔で頑張ります。宜しくお願いします。



新川博美

所属／岩里病院看護部
生年月日／昭38年1月18日
血液型／A型
趣味・特技／スキー・カラオケ
韓流ドラマ視聴
●老健施設での勤務は初めての為戸惑いもありますが、一日も早く慣れるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



萩原愛実

所属／病院看護部
生年月日／昭和60年1月8日
血液型／A型
趣味・特技／旅行
●7月16日に入職しました。
一生懸命働きたいと思います。
よろしくお願いします。



伊藤孝士

所属／ストリーム介護
生年月日／昭和44年1月31日
血液型／O型
趣味・特技／ゴルフ
●老人介護は初めてなので、まずは「オムツマスター」を目指して頑張ります。



職員旅行

戦後70年ということで、戦争資料館や記念館に行ってきました。

長崎旅行

7月11日～12日、25日～26日で、2班が長崎へ職員旅行に行ってきました。

1日目は、原爆資料館の見学をしました。原爆資料館では日本人よりも外国人の見学者が多いことが印象的です。外国人が日本への原爆投下をどのように感じているのか聞けませんでした。戦争反対の考えであってほしいと願います。原爆資料館の見学後、長崎の証言の会の方より戦時中のお話をしていたのですが、その際、写真だけでなく、戦後の長崎を撮影した貴重なカラーフィルムでの映像も見せていただき、より鮮明に当時の様子を知ることができました。

2日目は、軍艦島周遊クルーズの予定でしたが、第1班は台風の影響で軍艦島までは行くことができません。長崎港周遊クルーズに変更となってしまいとても残念でした。第2班も台風であきらめていましたが、陸から軍艦島を眺めることができ、旅行の目的はすべて達成し、満足して帰路に着きました。

小学生の頃に原爆資料館や平和公園等は修学旅行で行っていましたが、大人になって再び行ってみると、また違う視点で見ることができ、平和についてとても考えさせられる旅行でした。



大浦天主堂



野母崎（軍艦島見学）

大阪旅行

7/18～20、職員25名で「食とお笑いの大阪を満喫、ビリケンマンに幸せを祈ろう」旅行へ行きました。

大阪国際平和センターでは大阪大空襲の展示品や防空壕の当時の体験スペースを通し、戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました。



大阪国際平和センター



大坂城

大坂城天守閣からの展望はとても気持ちよかったです。なんばグランド花月で本場のお笑いよ吉本新喜劇をこの目で見て、ギャグとはいえ挨拶の大切さを学ぶことができ、笑って楽しむことが出来ました。

仕事を忘れ、とても有意義に過ごせた三日間でしよ。

呼子旅行

8月8日に日帰り旅行に行つて来ました。

最初に太刀洗平和記念館へ行きました。太刀洗には、大正8年から昭和20年まで旧陸軍が東洋一を誇つた太刀洗飛行場を中心とする一大軍都が存在し、昭和20年に米軍の大空襲により壊滅的な被害を受け多くの尊い命を失つたそうです。

また、この飛行場は特攻隊の中継基地として数多くの若き特攻隊員たちを見送つた場所でもあるそうです。館内にはさまざま歴史を知ることの出来る資料や世界でも数少ない零式艦上戦闘機の現存機などが展示されていました。私が一番心に残つたのは若くして命を失つた隊員たちの手紙や遺書です。死を覚悟した兵士たちが愛する家族へどんな気持ちで手紙を書いているかと想像すると胸が苦しくなりました。



太刀洗平和記念館



呼子のイカ

記念館を後にし、呼子のかべしまでイカの活き作りの昼食を頂きました。魚介類はどれも新鮮で豪勢な昼食を堪能しました。昼食後はイカ丸船に乗り海の見学に行きました。

船の上から呼子棧橋を眺め七ツ釜を見に行きました。七ツ釜の洞窟は、七つのカマドを並べたように見え海蝕洞窟で柱状の玄武岩が積層し断崖になっているそうです。水が透き通って底の方も見え玄武岩が幻想的でした。

船を後にし、最後におまかな村で買い物をして日田に帰ってきました。ふだん、戦争の事を深く考えることの無かつた私にとても身になる旅行になりました。そして他の部署の方々と交流できてとても楽しかつたです。この旅行に行けた事に感謝しています。ありがとうございました。



七ツ釜

日田漫歩⁽⁴⁹⁾

「香魚」復活に拍手！

梶原義則



「日田川は昔より我が国第一の称あり」

大分県出身の政治家で美食家としても知られる木下謙次郎（1869-1947年）はアユの産地について、著作「美味求真」で国内の有名河川を列挙した上で、こう激賞した。1925年発行の同書は食通の原典として名高い。

水郷ひたの代表的な風物詩、アユ漁。今季ばかりは気になり、川筋を通ると必ず友釣りを楽しむ太公望の姿を目で追った。随分とにぎやかで、ほっと胸をなで下ろす。

というのも、一昨年の漁獲量は24ト、昨年はわずか2ト程度と、例年の70~80トに比べてほぼ壊滅状態。原因はよく分からない。日田漁協の苦境を見るにつけ、やりきれなかった。

漁協や行政関係者は3月中旬、鹿児島県霧島市の天降川河口に稚アユ“買い出し”に行き、筆者も同行した。鹿児島湾から遡上する海産ものだ。現地漁協役員が自信満々に言い放った。「闘争心が強く、間違いなく釣れますよ」

結局、日田漁協は4月にかけて、海産稚魚20万匹、人工ふ化した6代目の稚魚80万匹を放流した。昨年の人工ものは26代目だったという。それが、功を奏したようだ。8月のお盆のころ、早々と尺もの（30センチ以上）も釣れ始めた。

隈町のアユ料理専門店「春光園」の後藤功一さんは「去年はほとんど手に入らず、山国川や菊池川産でしのいだが、お断りする客も多かった。今季は打って変わって持ち込まれたアユが多すぎ、購入を断るほど」とうれしい悲鳴。

河畔の亀山公園の看板に「江戸時代の文人たちも詩に句に文（漢詩）に『日本一の味』と日田のアユを讃えた」とある。日田漁協の手島勝馬組合長は「大山川、三隈川などの水量増加、水質改善こそが究極の特効薬です」。



尺アユに大満足の太公望
(8月16日、漁協下の大山川で撮影)

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

ストリーム デイケア

元気のいい職員が大勢います。(^^) 冗談を交わしながら、楽しくリハビリや入浴を行っています。デイを通して生活にメリハリのある生活習慣を身につけて頂き、夢や目標に向かって突き進んでいきましょう。デイケアでは、そのお手伝いをさせていただきます。



デイケアでは体験利用を行っています。是非、一度体験利用をされてみませんか？お気軽にご連絡ください。
※知人、友人の方のご紹介でも結構です。
※費用：450円（昼食・おやつ代込）がかかります。
TEL0973-26-3111（代表） FAX0973-26-3114
相談員：熊谷（くまがえ）

編集後記

風の中に少しずつ秋を感じるようになってきましたね。前回の発行から夏はイベントが目白押しで、とても楽しい記事が集まりました。この後も、日田では9月に高塚愛宕地蔵尊の秋の大祭や日田放生会、10月には小鹿田焼民陶祭や鯛生金山まつり、11月には天領まつりや千年あかりなどたくさんの行事があります。皆様の秋が実り多きこと、お祈りいたします。



医療法人 聖陵会

- ホームページ <http://www.seiryu.or.jp/index.html>
- E-mail ryo-ho@be-net.kcv.jp

救急指定 聖陵岩里病院

訪問看護ステーション いわさと

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター 銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院（カンボジア）